

カナダ
オカナガンへ留学
第1号 太田陽野さん
Q&A

Q カナダ留学を決意した動機は？

A 昨年夏、親善大使団に参加して、カナダの自然の美しさや人の優しさに触れてすっかり魅せられました。また、オカナガン大学が日本人留学生を受け入れるということがあって私にとってはグットタイミングでした。

Q 何を勉強したいですか？

A 英語の力をつけたいのです。それには日常生活を英語圏に身に置くことが一番早道かと思いました。また、広い視野から自分の生き方を見つめたいです。両親が賛成してくれたのがうれしいです。

Q 目ざす職業は？

A 英語を生かせる職場として、スチュワーデスのような仕事、それに準じた仕事を目ざします。



今年度、姉妹都市委員会としては二度目の文化祭参加となりました。昨年の三倍にも及ぶ大きなスペースとあって、かなり充実した展示ができました。

内容としては、サーモンアームの交流10周年の歩みをはじめ、百人以上にも及ぶ生徒の派遣、数々の貴重な記念品の展示などがとても好評でした。特に、今回の派遣団のビデオも放映して、ホームステイに参加した生徒達の明るい表情が見る人の足を止めていました。

INFORMATION

○中学生、高校生をカナダへ派遣

今年も姉妹都市カナダ・サーモンアーム市へ青少年親善大使の派遣を予定しています。一週間のホームステイを通して、カナダの美しい大自然と異国の文化を体験してみませんか。詳しい募集案内は広報あずま4月号に掲載する予定です。

お問い合わせは、役場総務課まで(78-2111)

○姉妹都市交流委員会にご協力を！

委員会では、青少年親善大使派遣・ホームステイ受け入れ事業への協力、一般訪問団派遣の実施、その他幅広い交流の推進を展開しています。皆さんのサポートをお待ちしています。

お問い合わせは、役場総務課まで(78-2111)

○今年もカナダ・サーモンアーム市より親善使節団が3月26日から4月2日までの8日間、東町にホームステイにより滞在し交流を深める予定です。ご協力をお願いします。

Welcome Students from Salmon Arm in 1999・3



正座と抹茶、日本の文化をどう感じたでしょう。

さよならパーティーでは、いつもながら「和気藹々」



——ホストファミリーのみなさん——

坂本 義量(八筋川)	根本 聖子(伊佐部)	鳥羽由希枝(伊佐部)
北見 知佳(市 崎)	伊藤 麻衣(手賀組新田)	大野 仁美(清久島)
黒田 健二(阿波崎)	山口 勝夫(市 崎)	板橋 要(市 崎)
吉田 慶治(結 佐)	吉田 薫(伊佐部)	黒田 保彦(上須田)
新里 清子(西 代)	永長 均(幸 田)	

あずま

●東町姉妹都市交流委員会機関誌●

姉妹都市

Sister Cities



サーモンアーム

No. 5
2000.3



ホストファミリーと共に友情の門に集う。(1999. 7月)

友情の門前に交流の輪が広がる

——第9回青少年親善大使団歓迎会のひととき——

友情の輪がまた広がりました。こんな沢山の人たちが「友情の門」の前に集って来ました。'99. 7. 26, 第9回, 13名の青少年親善大使団は、前年建てられたばかりのこの門前で感動の一瞬を味わいました。

設立一年後、屋根の銅板はしっかりと落ち着き、木材は生々しさを残しながらも凛と建ち、まさに日本の門がそこにありました。

どっしりと居座ったこの門が、10周年に及ぶサーモンアームとの交流の証であると実感しました。公園の水と緑にすっかり調和した姿に、しばしカナダの地にいることを忘れ

たものでした。

市長さんはじめ、ミスタージャパンの異名をもつスペンサー氏、前年来町のグレン団長さんなど、沢山の親日家とホストファミリーの皆さんが集って、歓迎会を開いてくださいました。

“Nice to meet you” “Long time no see” “How have you been?” が飛び交った楽しいひとときでした。

最後に、この門の建築に携わってくれた板橋要氏と職人の方々、そして物心両面からご支援くださった方々に心からお礼を申し上げます。“Thank you so mach for your efforts”

編集後記

文化祭での事。写し出される訪問団のビデオに見入る男性の帽子にカナダ国旗のバッチを発見。

お孫さんが一昨年カナダを訪れ、昨年はホストファミリーをされたご家族の方でした。楽しかった交流と辛かった別れの様子など貴重な体験を話して下さいました。

小さなバッチを通して交流へのご理解とご協力、そして、ご家族のぬくもりが伝わってくるひとときでした。

新しいミレニアム。皆様のご協力のもと、機関誌を通して交流の輪がさらに広がるようがんばりたいと思います。(新里, 井上)



ジャッキー・メイズ家

市長・エイコ嬢と



ジャッキー夫人と

団長 吉田多嘉子(伊佐部)

団長という大役を無事果たせたことを大変うれしく思います。
市長さん宅に一週間宿泊。ジャッキー夫人から陽気さ、エイコ嬢からさりげない親切を戴きました。市長さんは昨年11月の選挙に再選され、今後の活躍が期待されます。

=この夏、もう一つの家族と= '99サーモンアームへ 13人の青少年親善大使団報告



アリサカ・ジャーメイン家

言葉の壁にぶつかったことで、これからの目標ができました!!

森田 里奈(町田)



エリカ・ヴァンオマン家

言葉の違いがあつて大変だったけど、とても楽しかったです。

森田 菜保(町田)



シェーン・インガーさん、ホーマンさん、本つつぎ

Thank you!!
黒沼 雄太(本新)

シェーン・アダムソン家



手に届いた夢は澄んでいました。とても大切なことを教えられ経験しました。

荻沼あき菜(阿波崎)

タイソン・ヴァンオマン家



アンドルー・インゲンホースト家

ホストの人や家族のみんなはとても明るく、とてもやさしく接してくれました。

青木 景子(上之島)



クリスティーナ・ペイン家

今までは経験できなかった事を身につける事ができて、自分が大きくなりました。根本 照子(西代)



いつも笑顔で優しく接してくれたホストファミリー。楽しい時を過ごすことができました。

太田 陽野(西代)

ニー・ベンスミラー家



ホームステイ最後の日、さよならパーティーの前にMyloと一緒に。
草野 由子(本新)

デーブ・ウィリアムソン家



スーザン・フィリップ家

引率 尾林 靖之(東中)
市長さんの家でのパーティー、多くの方と交流を深めました。貴重な思い出を沢山のビデオに収めてきました。



ユコール・ローズ家

友情の門をみて、日本文化をもっとたくさん伝えたいと思いました。

佐藤 陽子(阿波)



チェルシー・タル家

最初はいろいろと不安があつたけど、ホームステイは思ったより楽しかったです。

黒田 史織(下須田)



ウェン・スペンサー家

副団長 飯塚 幸一(市崎)
副団長として団長を補佐し、課された役目を果たすことができた貴重な8日間でした。一週間たいへんお世話になったスペンサー御夫妻と、パンフへ出発する朝に。

誇り高き伝承

第六回親善大使

幸田 永長 辰徳



引率教師のテリーと共に

我が家では、毎年3月頃になると、カナダの話を家族でします。今年は誰がカナダに行つて誰が日本に来るのかなと話しているうちに、4年前の体験が思い浮かんで来ます。我が家には、今までにマーク、テリー、2人カナディアンがホームステイしました。中でもマークは、2年続けて我が家に来てくれて本当に嬉しかったです。慣れない英語で「はじめまして、ようこそ日本に」と緊張しながらコミュニケーションがとれた時は、嬉しかった事を覚えています。そして、それが自分への自信へとつながる事がわかりました。毎回1週間の間で残りの2日3日でお互いに友情が深まり、会話が弾んできて気が付くと明日カナダに帰る日になっているのがとても残念です。

マークやテリーとの思い出は、沢山ありカナダに仲の良い友達が出来たと思っています。もし又機会があれば、カナダに行ってみたいですね!。そして、この文を読んで1人でも多くの人が、カナダに行きたいと思う気持ちになってくれたら嬉しいです。

姉妹都市によせて

坂本 典子

To the people of Azuma.

I am delighted with the success of the Azuma/Salmon Arm twinning today. Thirteen years ago, I was a student of Mr. Chris Filiatrault at ABC English Center. After graduating from high school, I went to Salmon Arm for the first time and lived with Chris's parents Mr. Filiatrault for some months. During my stay, I got news from my father that the town of Azuma was seeking a community to tie up with for a twinning program. Mrs. Filiatrault and I talked and suggested the idea of Azuma twinning with Salmon Arm. Two years later, the twinning was signed between the two communities, and so far we have exchanged a large number of people.

The relationship between the two communities has been more successful than I could imagine. As a result, in Salmon Arm, 'Friendship Gate' was constructed as a symbol of the tenth anniversary of the twinning relationship. Furthermore, there are many students who are learning Japanese as a second language. In Azuma, some students who have experienced the home stay cultural exchange are now considering to Canada to study English after their graduation.

Lastly, I would like not only for children, but also many adults to take the opportunity to experience a great international friendship that overcomes the language barrier. I believe that this friendship will continue to grow and endure for many years come.

Noriko Sakamoto



〈プロフィール〉

東町西代生れ。高校卒業後カナダに留学。サーモンアームとの交流の草分けとして多方面で協力。パンクパーに在住。

〈訳〉

私は、13年前ABC英語センターの生徒でした。高校卒業後、サーモンアーム市を訪れ英語センターの校長であったクリス・フィリアトロウさんのご両親の元で数ヶ月ほどホームステイをさせていただきました。――(中略)――サーモンアーム市では、「友情の門」が建設され町のシンボルとなっています。又、多くの学生達は日本語を第2外国語として学んでいます。東町では、ホームステイを体験した学生達が進学先としてカナダへの留学を望んでいるようです。

今、東町とサーモンアーム市のつながりは、私の想像以上の成果を生んでおり、これに対し私は大変うれしく思っております。子供達はもちろんのこと、多くの大人の皆さんにも言葉の壁を乗り越えた、素晴らしい国際交流を体験していただきたいと思っています。

坂本 典子